

平成19年度「DPC導入の影響評価に関する調査結果および評価」

最終報告概要

平成20年5月9日

診療報酬調査専門組織DPC評価分科会

分科会長 西岡 清

第1 調査の目的

DPC導入の影響評価を行うために、診断群分類の妥当性の検証及び診療内容の変化等を評価するための基礎資料を収集することを目的とする。

第2 調査方法

平成19年7月から12月までの退院患者について、「診療録情報（診療録に基づく情報）」及び「レセプト情報（診療報酬請求明細書に基づく情報）」等を収集する。

第3 調査対象病院

- 平成15年度DPC対象病院 82病院
- 平成16年度DPC対象病院 62病院
- 平成18年度DPC対象病院 216病院
- 平成18年度DPC準備病院 371病院
- 平成19年度DPC準備病院 697病院

第4 分析対象データについて

厚生労働省が受領した7月から12月の退院患者に係るデータ（約430万件）のうち、包括払いの対象とならない病棟への移動があった者等を除外したデータ（約394万件）を分析の対象とした。また、平成15年度～18年度の調査データについても同時期のデータを用いて比較対象とした。

第5 主な結果

1 平均在院日数

(1) 平均在院日数の年次推移（表1 参考資料1 p.19～p.37）

全ての病院類型において、平均在院日数は減少傾向にあった。

【表1】在院日数の平均の年次推移

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
平成15年度 DPC対象病院	19.13	18.31	17.35	16.70
平成16年度 DPC対象病院	15.54	15.15	14.74	14.58
平成18年度 DPC対象病院	.	15.48	14.52	14.48
平成18年度 DPC準備病院	.	.	15.36	14.97
平成19年度 DPC準備病院	.	.	.	15.40

(2) 平均在院日数の減少の要因（参考資料1 p.38～p.48）

平均在院日数の減少の要因を「診断群分類毎の在院日数の変化による影響」と「患者構成の変化による影響」とに分けて分析すると、主に診断群分類毎の在院日数の減少によるものと考えられた。

2 入院経路

(1) 救急車による搬送の率・患者数の年次推移（表2 参考資料1 p.49）

救急車による搬送の率は、平成15年度DPC対象病院及び平成18年度DPC準備病院は横ばい傾向であり、それ以外の病院類型では、増加から横ばい傾向であった。

1施設1ヶ月あたりの救急搬送患者数は平成18年度DPC準備病院は横ばい傾向であり、それ以外の病院類型では、増加傾向であった。

【表2】救急車による搬送の率・患者数

病院類型	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
平成15年度DPC 対象病院（割合）	7.9%	8.3%	7.5%	7.4%	7.4%
（1施設当たり患者数）	71.7	78.8	74.3	79.2	79.2
平成16年度DPC 対象病院（割合）	11.8%	12.7%	12.2%	12.4%	12.7%
（1施設当たり患者数）	60.5	70.5	67.0	69.6	71.2
平成18年度DPC 対象病院（割合）	・	・	13.3%	13.7%	14.1%
（1施設当たり患者数）	・	・	78.4	85.5	88.9
平成18年度DPC 準備病院（割合）	・	・	・	13.3%	13.1%
（1施設当たり患者数）	・	・	・	57.8	57.5
平成19年度DPC 準備病院（割合）	・	・	・	・	13.3%
（1施設当たり患者数）	・	・	・	・	41.6

(2) 緊急入院の率・患者数の年次推移（表3 参考資料1 p.50）

緊急入院の率は、平成15年度DPC対象病院は減少傾向であり、平成18年度DPC準備病院は横ばい傾向であるが、それ以外の病院類型では増加から横ばい傾向であった。

1施設1ヶ月あたりの緊急入院の患者数は、平成18年度DPC準備病院は横ばい傾向であるが、それ以外の病院類型では増加傾向であった。

【表3】緊急入院の率・患者数

病院類型	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
平成15年度DPC 対象病院（割合）	27.5%	27.3%	25.8%	25.2%	25.5%
（1施設当たり患者数）	250.1	259.8	253.7	265.9	273.8
平成16年度DPC 対象病院（割合）	46.9%	46.2%	46.0%	47.6%	47.3%
（1施設当たり患者数）	243.5	256.2	252.9	268.2	264.2
平成18年度DPC 対象病院（割合）	・	・	45.8%	46.4%	46.7%
（1施設当たり患者数）	・	・	268.9	289.2	293.7

平成18年度DPC 準備病院（割合）	・	・	・	48.8%	48.6%
（1施設当たり患者数）	・	・	・	213.0	213.1
平成19年度DPC 準備病院（割合）	・	・	・	・	49.6%
（1施設当たり患者数）	・	・	・	・	155.5

(3) 他院より紹介有りの率・患者数の年次推移（表4 参考資料1 p.51）

他院より紹介有りの率及び1施設当たりの患者数は、平成18年度DPC対象病院を除いた病院類型では増加傾向であった。

【表4】他院より紹介有りの率・患者数

病院類型	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
平成15年度DPC 対象病院（割合）	40.0%	41.2%	41.4%	42.5%	43.6%
（1施設当たり患者数）	364.2	392.6	407.8	448.4	468.7
平成16年度DPC 対象病院（割合）	36.0%	32.4%	36.2%	36.2%	38.1%
（1施設当たり患者数）	184.2	179.7	199.3	203.9	212.7
平成18年度DPC 対象病院（割合）	・	・	37.4%	34.7%	35.1%
（1施設当たり患者数）	・	・	219.9	216.1	220.8
平成18年度DPC 準備病院（割合）	・	・	・	35.5%	37.1%
（1施設当たり患者数）	・	・	・	154.9	162.6
平成19年度DPC 準備病院（割合）	・	・	・	・	36.9%
（1施設当たり患者数）	・	・	・	・	115.7

3 退院先の状況（表5、6 参考資料1 p.52）

(1) 自院の外来の割合の年次推移

自院の外来の割合は、平成15年度DPC対象病院は増加傾向であるが、平成16年度DPC対象病院は減少傾向であり、それ以外の病院類型では横ばい傾向であった。

【表5】退院先の状況「自院の外來」

病院類型	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
平成15年度DPC 対象病院(割合)	81.52%	82.59%	83.55%	84.16%	84.63%
平成16年度DPC 対象病院(割合)	73.56%	74.59%	74.10%	72.13%	71.63%
平成18年度DPC 対象病院(割合)	.	.	74.97%	75.41%	75.00%
平成18年度DPC 準備病院(割合)	.	.	.	74.24%	74.71%
平成19年度DPC 準備病院(割合)	74.91%

(2) 転院の割合の年次推移

転院の割合については、平成15年度DPC対象病院は減少傾向であるが、平成16年度DPC対象病院は増加傾向であり、それ以外の病院類型では横ばい傾向であった。

【表6】退院先の状況「転院」

病院類型	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
平成15年度DPC 対象病院(割合)	4.80%	4.73%	4.39%	4.26%	4.38%
平成16年度DPC 対象病院(割合)	5.12%	4.74%	4.91%	5.31%	5.29%
平成18年度DPC 対象病院(割合)	.	.	5.31%	5.40%	5.44%
平成18年度DPC 準備病院(割合)	.	.	.	4.94%	5.03%
平成19年度DPC 準備病院(割合)	5.02%

4 退院時転帰の状況(表7 参考資料1 p.53)

(1) 治癒・軽快の割合

治癒及び軽快を合計した割合は全ての病院類型においてほぼ横ばい傾向であった。なお、治癒の割合は全ての病院類型で減少傾向であり、軽

快の割合は全ての病院類型で増加傾向であった。

【表7】退院時転帰の状況「治癒・軽快」

病院類型		平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
平成15年度DPC 対象病院(割合)	治癒	8.08%	6.52%	6.56%	5.05%	5.00%
	軽快	70.65%	73.08%	72.45%	74.07%	74.17%
	治癒+軽快	78.73%	79.60%	79.01%	79.12%	79.17%
平成16年度DPC 対象病院(割合)	治癒	9.62%	8.03%	5.47%	4.26%	3.63%
	軽快	70.57%	73.70%	76.14%	77.86%	78.92%
	治癒+軽快	80.19%	81.73%	81.61%	82.12%	82.55%
平成18年度DPC 対象病院(割合)	治癒	.	.	8.85%	6.88%	4.80%
	軽快	.	.	71.72%	74.67%	77.24%
	治癒+軽快	.	.	80.57%	81.55%	82.04%
平成18年度DPC 準備病院(割合)	治癒	.	.	.	8.70%	6.99%
	軽快	.	.	.	71.50%	73.40%
	治癒+軽快	.	.	.	80.20%	80.39%
平成19年度DPC 準備病院(割合)	治癒	7.49%
	軽快	72.55%
	治癒+軽快	80.04%

5 再入院率(表8、9 参考資料1 p.54~p.72)

(1) 再入院の割合の年次推移

再入院の割合は、全ての病院類型で増加傾向であった。

【表8】再入院率「再入院の割合」

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
平成15年度DPC 対象病院(割合)	11.87%	13.03%	13.62%	13.86%
平成16年度DPC 対象病院(割合)	11.55%	12.38%	12.87%	13.09%
平成18年度DPC 対象病院(割合)	.	11.98%	12.51%	12.63%
平成18年度DPC 準備病院(割合)	.	.	12.02%	12.46%
平成19年度DPC 準備病院(割合)	.	.	.	12.22%

(2) 同一疾患での6週間以内の再入院の割合の年次推移

同一疾患での6週間以内の再入院の割合は、全ての病院類型で増加傾向であった。

【表9】再入院率「同一疾患での6週間以内の再入院」

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
平成15年度DPC 対象病院(割合)	6.04%	6.83%	7.26%	7.39%
平成16年度DPC 対象病院(割合)	5.01%	5.92%	6.32%	6.49%
平成18年度DPC 対象病院(割合)	.	5.68%	5.88%	6.07%
平成18年度DPC 準備病院(割合)	.	.	5.58%	6.02%
平成19年度DPC 準備病院(割合)	.	.	.	5.95%

6 患者構成(表10 参考資料1 p.73)

MDC別の患者の構成割合は、全ての病院類型でMDC06「消化器疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患」が最も高い割合を占めており、近年の患者構成の割合には大きな変化は見られなかった。

【表10】患者構成

MDC	平成15年度 DPC対象病院		平成16年度 DPC対象病院		平成18年度 DPC対象病院		平成18年度 DPC準備病院		平成19年度 DPC準備病院	
	平成18年	平成19年	平成18年	平成19年	平成18年	平成19年	平成18年	平成19年	平成18年	平成19年
01	6.60%	6.42%	6.77%	6.30%	6.98%	6.82%	6.41%	6.31%	.	6.74%
02	8.16%	8.50%	3.94%	4.07%	3.85%	3.84%	3.98%	4.29%	.	3.87%
03	5.26%	5.21%	4.29%	4.08%	4.50%	4.25%	4.68%	4.42%	.	4.01%
04	8.05%	8.07%	11.77%	11.87%	11.82%	11.96%	12.67%	12.48%	.	12.49%
05	9.14%	9.18%	10.37%	10.35%	10.87%	11.21%	9.51%	9.83%	.	9.82%
06	18.56%	18.64%	22.16%	22.06%	22.15%	22.38%	22.29%	22.67%	.	23.53%
07	7.69%	7.71%	4.89%	5.24%	4.98%	5.00%	5.05%	5.08%	.	5.09%
08	1.41%	1.31%	1.18%	1.14%	1.15%	1.09%	1.28%	1.25%	.	1.17%
09	1.47%	1.61%	1.18%	1.35%	1.22%	1.30%	1.14%	1.22%	.	1.30%
10	4.10%	3.97%	3.22%	2.99%	3.08%	2.96%	3.34%	3.26%	.	3.20%
11	7.49%	7.39%	8.41%	8.46%	7.96%	7.87%	8.16%	8.18%	.	7.61%
12	8.95%	9.07%	7.00%	7.35%	7.00%	7.06%	6.24%	6.21%	.	6.08%
13	2.99%	2.94%	2.43%	2.62%	2.24%	2.34%	1.91%	1.93%	.	1.75%
14	3.47%	3.52%	2.11%	2.08%	1.90%	1.95%	1.94%	1.95%	.	1.90%
15	0.79%	0.69%	2.29%	1.83%	2.15%	1.80%	2.72%	2.22%	.	2.31%
16	5.87%	5.77%	8.01%	8.20%	8.16%	8.20%	8.70%	8.70%	.	9.13%

参考

MDC01	神経系疾患	MDC09	乳房の疾患
MDC02	眼科系疾患	MDC10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患
MDC03	耳鼻咽喉科系疾患	MDC11	腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患
MDC04	呼吸器系疾患	MDC12	女性生殖系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩
MDC05	循環器系疾患	MDC13	血液・造血器・免疫臓器の疾患
MDC06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	MDC14	新生児疾患、先天性奇形
MDC07	筋骨格系疾患	MDC15	小児疾患
MDC08	皮膚・皮下組織の疾患	MDC16	外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患

第6 まとめ

全ての病院類型において、平成18年度までと同様に、平均在院日数は減少傾向であり、その要因としては、診断群分類毎の平均在院日数が減少することによるものであった。

一方、救急車による搬送、緊急入院及び他院からの紹介の患者数は増加傾向であったことから、重症度の高い患者を避けるような患者選別の傾向が見られておらず、診療内容に悪影響は認められないものと考えられる。

加えて、退院時転帰の状況においては、治癒及び軽快を合計した割合が一定であるものの、治癒の割合は減少傾向であることについては、急性期としてある程度病態が安定した時点までの入院医療を反映しているものと考えられ、急性期として適切な医療が提供されているものと考えられる。

以上のことから、DPCにより、質の確保はされつつ医療の効率化が進んでいるものと考えられる。

また、これまで増加傾向であった再入院率については、平成19年度も引き続き増加傾向がみられた。

この問題については、DPC特別調査（ヒアリング）を行い、その結果を受けての中医協・基本問題小委員会、DPC分科会での議論を踏まえ、平成20年度からは、同一疾患での3日以内の再入院（病棟間の転棟に伴う再転棟も含む）については、臨床現場の実態として、実質的に一連の療養として支障がないものとして、1入院として扱うように算定ルールを見直した。今後は、この効果をみるために、引き続き再入院率の動態を確認していく必要がある。また、4～7日以内の再入院の例や本来であれば外来で実施できると思われる治療でも入院医療で行われている例については、今後も実態の調査・検討を行っていくこととされている。

なお、平成15年度DPC対象病院においては、退院先の状況として、自院の外来の割合が増加傾向であり、転院の割合が減少傾向であったことから、退院患者が同じ医療機関の外来へ通院している傾向が示唆される。

しかし、当該医療機関では、専門外来（外来化学療法・外来放射線療法等）を実施している場合が多いことも考えられ、その実態について今後調査を行っていく必要があると考えられる。